

震災から復興へのあゆみ



地震発生後ただちに自主避難を呼びかけ、1日最大930人が近くの避難所に（日野中学校体育館）



ドーン、ガタガタ、大きな揺れが約1分間続く、まさか震度6強の大地震が発生しようとは…（黒坂地内）



役場庁舎も被害が生じた



次々と発生する余震に不安がつる（役場前駐車場）



初めての体験に、だれもがぼうぜんとなった（黒坂地内）



和牛も興奮気味、安全な場所に避難（安原地内）



家屋被害は、全壊129戸、半壊441戸、一部破損945戸、計1,515戸の全世帯におよんだ(下榎地内)
(写真：読売新聞大阪本社)



震源に近い黒坂、下黒坂、下榎などに大きな被害をもたらした(黒坂地内)



外見は良くても柱が傾いた家屋（下榎地内）



震源に近いところでは家財道具が散乱した（黒坂地内）



住宅の周りの石崖や擁壁が崩れる被害も発生（下黒坂地内）



壁が落ちるなど土蔵の被害が多いのも特徴（別所地内）



J A 日野町支所米倉庫内で崩れた米袋（本郷地内）



墓石の倒壊も激しい（黒坂地内）



地震の影響で道路に2m以上の段差ができる（下黒坂地内）



JR 伯備線も山林の土砂崩れのため20日間にわたって一部不通に、その間バスで代替輸送（下黒坂地内）



あちこちで通行止めなどの規制、う回路を探す（国道180号・本郷地内）
（写真：読売新聞大阪本社）



国道の数か所に土砂が流出し、道をふさいだ（国道180号・本郷地内）



路面の亀裂や沈下が多く見られた町道（下黒坂地内）



各地で大規模な土砂崩れが発生、農業用水路をふさぎ水田に水が送れなくなるなどの被害も生じた（黒坂発電所付近）



大規模な山林災害は久住地区への道を閉ざした（県道菅沢日野線）



雨が降るたびに土砂崩れの心配も（大規模林道日野金城線）



トンネル内部も亀裂が生じる（大規模林道日野金城線）



震災後の黒坂のまち（写真：岡山県・堀家純一氏、平成12年10月撮影）



ちょうど1年前に空撮された黒坂のまち（写真：新潟県・ゼネラルエアースystem(株)、平成11年10月撮影）



震災後の下黒坂地区（写真：岡山県・堀家純一氏、平成12年10月撮影）



震災1年後の黒坂のまち（平成13年9月撮影）



地震発生直後（午後1時35分）に日野町災害対策本部を設置。火の元点検や自主避難の呼びかけ、住民の安否確認、避難所の確保など初動体制に取り組む（日野町庁舎前）



被害確認や住民支援に消防、警察、自衛隊などが協力して出動（日野町庁舎）



地震直後（午後1時31分ごろ）の役場庁舎内、まだ揺れている



ブルーシートを自治会を通じて配布



陸上自衛隊による給水や炊き出し支援（日野町庁舎駐車場）



水道施設が被災したため、復旧するまで町内7か所で順次給水車による給水活動を行う（下榎地区）



避難所等への食糧を確保



翌朝、生田町長が防災無線を通じて町民に激励と状況報告



報道発表も随時開催、全国から報道関係者がつめかける